

くすりの
散歩道

中国から日本へ、宗教から美学へ

茶葉

ち
や

ば

千葉大学 名誉教授

山崎 幹夫

Mikio Yamazaki

先頃、機会があってコーヒーの歴史を調べていたら以下のような逸話が見つかった。アラビアのアデンに住むイスラム教の僧侶がエチオピアへの旅に出た際に、飲めば疲れを忘れるという不思議な飲み物を好んで飲む人達に出会った。帰国した後に旅の疲れから病の床についた彼は旅先で手に入れた飲み物を思い出して飲んだところ、たちまち疲れを忘れて元気を取り戻した。それがコーヒーであった。こう

して恐らく15世紀の頃にエチオピアからアラビアに伝えられたコーヒーは、深夜の礼拝を行うイスラムの僧達の眠気を払うのに役立てられたという。



面白いことに、東洋における喫茶の習慣のいわれにも同じような逸話があり、臨済宗とともに喫茶の習慣を中国から我が国に伝えた僧栄西による我が国最初の茶の書物『喫茶養生記』は、茶は末代養生の仙薬であり、人倫延齡の妙薬であると述べ、喫茶が心身を爽快にする働きをもつことを説いている。昼夜を分かたず修行に励み、読経に明け暮れる衆僧たちは茶を賜って眠気を払い、精神を集中して沈思熟考を重ねることができたと伝えられる。



『本草綱目』には「茶は苦にして寒。陰中の陰であり、沈であり降であり、最も能く火を降ろす。酒食の毒を解し、人を爽やかにして昏せず睡らざらしめる。小便を利し、痰熱を去り、渴を止め、人をして睡を少なからしめ、力ありて志を甦らせる」と茶の効能を述べ、一方で「虚寒、血弱の人には胃を悪寒させて元気を損じ腹痛を起こすなどの弊害をもたらす」などの叙述もある。これらはまさに茶に多く含まれるカフェインの薬理作用に他ならない。



喫茶の習慣が中国から我が国に伝えられたことは前述のとおりであるが、実はその伝来の時期はかなり古く、すでに聖徳太子のころ、仏教の伝来とともにもたらされたとされる。聖武天皇に関する記述の中に天平元年(729)に宮中で大般若経が講じられた際に参加した100人の僧たちは茶を賜ったという記述があるという。すでにその頃には茶樹の栽培も行われ、茶の製法も伝えられて貴族や僧たちの薬料として利用されていたらしい。



私事で恐縮だが、先日、九州への所用の旅の折に大宰府の天満宮に参拝し、いつもの習慣で「梅ヶ枝餅」を食して抹茶をいただいたのだが、抹茶の美味しさにしばし時間を忘れる思いがした。考えてみたら、大宰府に近い八女のあたりは「八女茶」で知られる銘茶の産地であった。



先述した栄西は、建久2年(1192)、2度目の中国(宋)への留学から帰国した際には長崎県の平戸に上陸し、

その地に持ち帰った茶の種子を蒔き抹茶の製法を教授したという話が残っている。大宰府に流された菅原道真は生来の下戸であったため、ひとり茶を点てては憂さを晴らしていたという逸話もあるのだが、この逸話には流石の道真公も心に潜む激しい煩悶、憤懣は喫茶だけで癒すことができずに、ついつい盃半分の酒を飲んでしまったという「付録」がある。当時の道真の詩の一節に「喫茶は」煩懣を癒すのに効験なく、強いて半盞の酒を傾けた」とあるのがその証拠である。



当然のことながら、人々が茶やコーヒーを好むのはその香気、風味の良さの他に、かなりの量が含まれているカフェインの興奮作用に溺れるためでもある。「溺れる」のはカフェインが持つ依存性のためで、摂取しはじめたら「止められない止まらない」という依存性には気持ちの上での依存性と生理的に習慣性を形成してしまう依存性があり、後者の激しいモルヒネやコカイン、あるいは覚せい剤などと違って、カフェインの依存性は主として軽度な精神的依存である。たとえば「薬物弁別試験」という、単純に説明すると、欲しい餌を得るためには何十回も回を重ねてレバーを押さなければならない装置にサルを入れておくと、欲しい餌のためにサルは執拗にレバーを押しまくる。これに似た方法でカフェインの依存性をしらべると、カフェインの場合、サルは100回のレバーを押すのに対して、ニコチンでは800~1000回、アルコールでは3200~6400回ものレバー押し作業を続行するという依存性比較値が報告されている。したがって、煙草や酒類にくらべるとはるかに弱いながらもカフェインの嗜好には精神的依存性が関与している。



わが国で織田信長、豊臣秀吉らが活躍した頃に31歳の若さで来日し、30年もの年月を日本で過ごした宣教師ルイス・フロイスは「日本人は茶の粉に熱湯を注ぎ、竹の刷毛でかき混ぜて、荘厳な作法に従って茶を飲む」というメモを書き残している。千利休が創始した「茶道」である。武家社会において始まり、重んじられた「茶の湯の文化」への日本人の傾倒には、単に茶の葉に含まれるカフェインの依存性による理解では到底同意できない「何か」があると思われる。